

## 秋の日帰り旅行記

### 「ガーデンミュージアム比叡と比叡山延暦寺」

山本 十四郎

11月13日、天候に恵まれた秋晴れの日、秋の日帰りバス旅行が催されました。集合場所には役員の皆さんなどは30分前にもかかわらず関西鹿和会の子旗を持ちお出迎え。(私は役員の分際でありながら電車の都合?で少し遅く!)すでに大半の方は乗車済みで、幹事である建築の加藤さん達はアルコールの不足による社会不安?の防止のため、継足しの買い出しに行かれたとのこと。買い出しも終わり飲物による不安も解消し、集合時間九時の五分前には皆さん集合されいよいよ出発となりました。



本日の参加者は当初より2名減り22名となりバスも軽々と発車。

今日は新御堂筋から豊中インター～名神高速～京都東インターへ走行の予定である。発車後しばらくして幹事の加藤さんから本日の観光コース(ガーデンミュージアム比叡と比叡山延暦寺)についての説明などのあと、橋本会長の出発時の挨拶がありました。そののち飲物の配賦がガイドさんからあり待望のアルコールタイム。観光バスの座席の高い視線から見える外の景色や横を走る乗用車や貨物送トラックの走行の様子をビール片手に見ながら隣に座っている人との歓談、近況などをあれこれと話している間にすいすいと渋滞もなく京都東インターを10時におりる。

バスは大津市内を走り比叡山ドライブウェイの田の谷峠料金所へ。ドライブウェイは予想とは裏腹にカーブが多く、右へ左へと体が振り回され、車窓の景色も琵琶湖の湖面をのぞいているつもりが、すぐに紅葉途中の山の斜面へと切り替わり、写真を撮ろうと奮闘したが徒労に終わってしまった。



一般的な展望の良いドライブウェイを想像していると少しがっかりとするが比叡山へ上るための道路と割り切れば仕方ないのかもしれない。行ったことは無いが八瀬側から比叡山ロープウェイやケーブルカーを使っただけの旅もゆっくりとしていいかもしれない。

10時半過ぎにガーデンミュージアム比叡到着。下界京都では曇り空であったが我々一行が来るのを待っていたかのように雪の洗礼を受ける。



さすが比叡山標高 830 米である。皆さん下車後傘を差し、降る雪と雪景色に歓声をあげながら園内を散策。ここは印象派の画家たちの書いた作品をモチーフに設計された庭園美術館とのこと。



モネやルノワールの描いた絵画の陶板での再現したものや睡蓮の池、ローズガーデンなどが配置されている。残念ながら 11 月も中旬であるので咲いている花の数も少ないが、大輪のダリアやバラその他の花が咲いており、初夏のころに来たらさぞかし綺麗な景色が見られたのではと思った。



後で調べて分かったことであるがカフェ近くにショップがあるがその中にモネの蠟人形があり動きながら印象派のことや日本に憧れていたこと

などを独り人形劇で説明してくれるそうです。



事前の勉強不足で残念ながらモネさんに会うことはできなかった。

雪の園内散策は早々に切り上げ、少し早いがお楽しみの昼食タイム。カフェの二階にある休憩所で外の景色を見ながら、お弁当とまたまたアルコールの補給。食料と燃料補給があると自然と元気が出て昼食時の話も弾みます。食事休憩の後、バス移動まで時間があるので展望台へ登り琵琶湖の展望をたのしむ。360度の展望の利く窓には見える方向の地名や山名、島の名前などが掲示してあったがあいにくの天候ですっきりとは見えなかった。遠くは石川県と岐阜の県境にある白山まで書いてあった。(パソコンで調べると直線距離で147キロと出ました。) 展望台のあとは駐車場へ向かうが途中でモネの(フランスのジベルニー村にある自宅の庭の池)睡蓮の池を模した池があった。形は太鼓橋もあり睡蓮の絵が良く再現されていたが睡蓮の花は見られなかった。



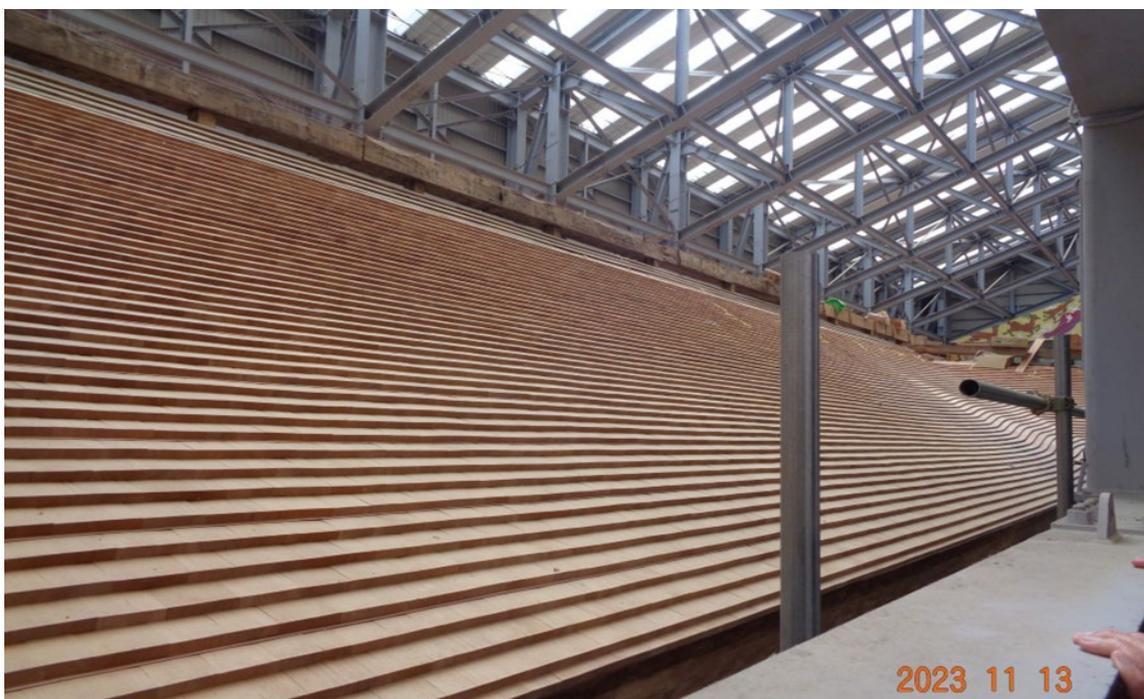
これも後知恵であるが睡蓮には熱帯温帯のものがあり、昼咲きと夜咲きのものもあり初夏から秋にかけて咲くそうです。ちなみに睡蓮と蓮の花は似ているが、モネの絵は睡蓮であり水面上に咲いています。蓮の花は水面から茎が1米ほど伸びその上に花を咲かせるそうです。

12時20分皆さんがお待ちの駐車場へ戻り、天候も回復した琵琶湖をバックに記念の集合写真撮影ののち比叡山延暦寺根本中堂へ向かう。

あっという間に東塔エリアの駐車場に到着、また降り出した雨の中を根本中堂に向かって歩く。根本中堂は現在改修工事中で回廊を含めた本堂大屋根にかけて仮設の大屋根が架けられていた。

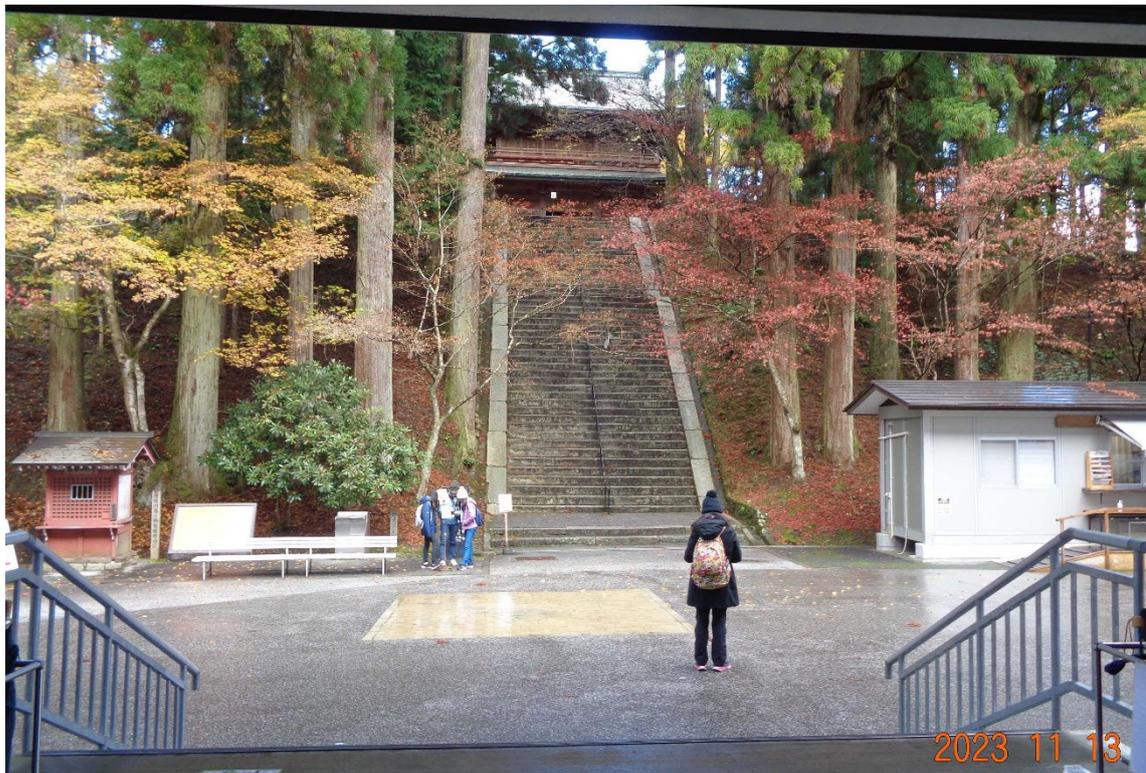


(前回の改修は1951年とのことで約70年毎に改修されているようである。今回の改修期間は2016年から10年間の予定とのこと。)



仮設の入り口から入った我々六人ほどのグループはガイドさんと離れてしまい、踊り場の設けてある修学ステージ(見学用デッキ)を歩いていた。踊り場からは改修中の回廊の屋根のとち葺き(サワラ材厚さ 24 ミリ・木曽産)による葺き替えの様子や大屋根を見たのち、

本尊の薬師如来を拝みに行く。本尊の前の畳敷きのところで他の参拝の皆さんがグループに分かれてお坊さんに法話を聞いておられた。我々も優しいような 70 代のお坊さんに声をかけられ法話を聞くことになったが、そのお坊さんは天台宗の山形の末寺(失礼)からお勤め(お手伝い)に一週間ほど来ているところだと言っておられた。法話と言われたのでありがたいお話を聞いて少し悟りを開いて帰ろうと意気込んでいたが、30 分ほどの話は天台宗と最澄さんや延暦寺の成り立ちなどに終始した話ばかりでお坊さんには悪いと思ったが少し拍子抜け。そのあと薬師如来と不滅の法灯(1200 年灯り続けている)を拝み歴史の長さを感じつつ根本中堂を後にする。外に出ると雨もやっと上がり駐車場に戻る。



(ここで不滅の法灯の裏話。最澄さんが延暦寺を開いた後、信長さんによって焼き落とされたとき法灯の灯りもいったん消えてしまいましたが、実はそのずっと以前に山形の立石寺『芭蕉の句、閑さや岩にしみ入る蟬の声、で有名なあの山寺』に分灯されていたものを持ち帰って法灯が復活したという話があったそうです。めでたし、めでたし。)

3時過ぎに駐車場を出発し一路大阪梅田へ。比叡山の雪や雨が嘘のように名神高速は良い天気で道路の渋滞もなく気持ちよくすすい走る。

車内では最後に橋本会長からお別れと慰労の挨拶があり間もなく大阪

梅田に無事到着する。

参加して頂いた皆様、無事の帰着お疲れさまでした。

来年度はもう少し早い時期に実施をしたいと考えております。

会員の皆様、バス旅行車内は少し狭いですがみんなでワイワイと楽しい旅行をしましょう。

皆様の振るっての参加をお待ちしております。